

地域・社会への責任



総合バイオマス企業として新たな製品を創出し、事業を拡大していく日本製紙グループは、広大な森林を育成・管理し、大規模な生産拠点を持つことから、その地域と働く人たちに大きな影響力があります。地域との共生は、当社グループの持続性にとって不可欠です。

シラネアオイの植栽

評価指標	目標	達成状況(2017年度)
重要課題 地域・社会との共生		
コミュニケーションの機会	地域・社会から事業への理解を得る	学校や町内会など地域団体の見学会受け入れ、イベント共催による地域との交流など
ステークホルダーからの評価	私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います(社会貢献活動の理念)	活動に関わったステークホルダーの皆さまから、さまざまな意見・評価を収集(活動の改善に活用)

方針とマネジメント

基本的な考え方 62

地域・社会との共生

就業支援 63

科学技術の振興 63

先住民への配慮 63

生物多様性の保全 63

コーポレートアイデンティティの共有

社有林の活用 64

方針とマネジメント

地域の方々に信頼され、親しまれる企業であるために、各地でさまざまな社会貢献活動を続けています

基本的な考え方

社会全体の発展に貢献し地域と共生します

日本製紙グループは社会の一員として社会全体の発展に貢献したいと考えています。必要とされる製品の供給を続けるとともに、地球環境の保護、文化や地域社会の発展にも役立ちたい——そのための活動を積み重ねていくことが、社会から信頼を得て、地域と共生しながら事業活動を続けていくことにつながります。

国内外でのさまざまな取り組みは、工場周辺の清掃活動、植林地域での就業支援など地域に根ざした活動や、社有林を活用した「森と紙のなかよし学校」の実施、工場見学など、グループの資源を活かした活動にも及びます。

社会貢献活動の理念と基本方針

(2004年4月1日制定)

理念

私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います。

基本方針

1. 文化の継承・発展に寄与する活動を行います
2. 地球環境の保護・改善に貢献する活動を行います
3. 地域社会の発展に役立つ活動を行います

具体的な活動テーマ

- グループ各社の工場および海外現地法人における地域活動の充実
- グループの専門性や資源を活かした活動の推進
- 従業員が主体となって取り組む社会貢献活動の推進
- 日本国内の社有林(約9万ヘクタール)の有効活用
- 社内外への積極的な広報活動

● 社会貢献活動の推進体制

日本製紙グループでは、CSR本部が中心となって、グループ全体の社会貢献活動を推進しています。グループ各社においては、社会貢献担当者をそれぞれ選任しています。各担当者は、従来の地域貢献活動を把握するとともに、それらの充実に努めています。

日本製紙グループの主要な社会貢献活動一覧

主な取り組み	具体例	記載ページ
地域・社会に関する活動		
地域美化活動	旭山動物園での「ありがとう大作戦」	WEB
地域の安全・防災	子ども110番パトロール事業	—
	交通安全への取り組み	55
	消防団への参加	—
地域文化の保全	飛鳥山薪能の運営支援・協賛	WEB
先住民への配慮	先住民へのハーブ自生地開放	WEB
	先住民遺跡の保護	63
地域イベントの開催・参加	お祭りなど地域行事への参加・協賛	WEB
	所有する厚生施設(体育館など)の一般への開放	—
	夏祭りなどイベントの開催	—
福祉活動	ピンクリボン運動を支援するコピー用紙の販売	WEB
	社会福祉団体のイベントへの参加・協賛	—
	社会福祉団体の製品の購入	—
	チャリティー草競馬の会場提供	—
社会教育の機会提供	CSR講演会(公開セミナー)の開催	—
科学技術の振興	藤原科学財団への支援	63
災害時の支援活動	義援金や支援物資の提供など	WEB
環境に関する活動		
植樹活動	植樹活動の実施・参加	64
	独自技術の活用	42
生物多様性の保全	シマフクロウの生息地保全と事業の両立	41
	「シラネアオイを守る会」の活動支援	42
	西表島での外来植物駆除活動	63
リサイクル活動の推進	「リサイクルプラザ紙遊館」の運営	WEB
	リサイクル推進団体の支援	WEB
	紙バックリサイクル	39
	木屑リサイクル	WEB
地域への説明責任	環境コミュニケーション	34
教育に関する活動		
社会見学の機会の提供	地域中学校職場体験の受け入れ	WEB
社有林の活用	「森と紙のなかよし学校」の開催	64
就業支援	インターンシップ、職場体験の受け入れ	WEB
	地域の人々の要望に沿った講習会の開催	63
従業員による授業	出前授業、学校授業への協力	WEB
音楽を通じた教育機会の提供	札幌ポップスコンサートへの児童・生徒ご招待	WEB
スポーツを通じた教育機会の提供	野球大会の開催	—
	アイスホッケー大会の開催	—
	福知山マラソン協賛	—
教育現場への製品提供	教育機関への紙・印刷物の提供	—



▶ 日本製紙グループの主要な社会貢献活動

<https://www.nipponpapergroup.com/csr/society/activity/>

地域・社会との共生

地域と共生しながら事業活動を続けていきます

就業支援

事例

地域の人々の要望に沿った講習会の開催 (ブラジル AMCEL社)

AMCEL社は、植林地をはじめとする広大な土地を保有しており、地域に住む人々との協調、対話の深化に努めています。その一環として、地域の人々から就業や生活のために学びたいことを聞き取り、それらに沿ったテーマで講習会を継続的に開いています。

2017年度はAmapá(アマパ)、Santana(サンタナ)、Ferreira Gomes(フェレイラゴメス)、Tartarugalzinho(タウタウガウジーニョ)の4地域で、「マンジョッカ芋の加工」「アサイーの収穫」「家禽の飼育」「園芸」「自家製石鹸の調製」「情報処理」をテーマとし、AMCEL社が招聘した専門家による講習会を開催しました。各講習会は4日から10日間の内容で、100人以上が参加し、好評を博しました。



アサイーの収穫



園芸

科学技術の振興

事例

藤原科学財団への支援 (日本製紙(株))

(公財)藤原科学財団の「藤原賞」は、日本のノーベル賞ともいわれ、科学技術の発展に卓越した貢献をした日本の科学者を顕彰する学術賞です。創設者の藤原銀次郎翁が日本の科学技術の振興に貢献してきた精神を受け継ぎ、日本製紙(株)は財政的な支援を続けています。



向かって左から2人目が永長副センター長、同じく3人目が門脇常勤客員教授

「第59回藤原賞」では、2018年6月、理化学研究所創発物性科学研究センターの永長直人副センター長および帝京大学医学部の門脇孝常勤客員教授に、賞状とメダル、副賞の1,000万円が贈られました。

先住民への配慮

事例

先住民遺跡の保護 (オーストラリア NPR社)

NPR社が管理する豪州植林プロジェクトのひとつであるPTP植林地内で、2016年にアボリジニ関連の古い石器が発見されました。専門家による現地調査を実施し、該当エリアは2017年にアボリジニ関係遺跡として登録されることとなりました。今後も



発見された石器

地元のアボリジニ関連団体との対話を継続するとともに、遺跡を保護するための標識を設置するなどして現状維持に協力していきます。

生物多様性の保全

事例

西表島での外来植物駆除活動 (日本製紙(株))

日本製紙(株)は、2017年11月に西表島の国有林で、外来植物のひとつであるアメリカハマグルマの第1回駆除活動を地元のNPO法人西表島エコツーリズム協会とともに実施しました。この活動は、2017年8月に林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署と締結した協定に基づくものです。西表島エコツーリズム協会とは現地での活動を協働で行うパートナーとして協定を締結しています。

西表島は日本最大規模のマングローブ林や亜熱帯性の広葉樹林などで構成される森林が広がり、国の特別天然記念物のイリオモテヤマネコ(絶滅危惧IA類)をはじめとする貴重な野生動植物が生息・生育しています。一方で、多数の外来植物が広域に侵入していることが確認されています。

今回駆除したアメリカハマグルマは繁殖力が強く在来植物の生育に大きな影響を与えることから、環境省によって緊急対策外来種に指定されています。当社は、今後も西表島エコツーリズム協会とアメリカハマグルマの駆除活動を継続していきます。



駆除活動



作業終了後の集合写真

コーポレートアイデンティティの共有

日本製紙グループらしさを地域の方々と従業員が体感できる活動を実施しています

社有林の活用

事例

毎年「森と紙のなかよし学校」を継続開催(日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))



社有林散策

「森と紙のなかよし学校」は日本製紙(株)の国内社有林(約9万ヘクタール)を活用した、日本製紙グループ独自の自然環境教室です。社有林の豊かな自然に触れ、「森」と生活になくてはならない「紙」とのつながりを体験してもらう機会を提供を目的として、2006年10月に群馬県の菅沼社有林(丸沼高原)でスタートしました。

「森と紙のなかよし学校」は、プログラム全体を従業員の知識と経験を活かして企画・運営しています。グループ従業員のガイドによる森林ハイキングや、森で拾ってきた小枝を材料にした紙づくりなど、参加者が楽しめるように趣向を凝らしています。参加者は一般から公募しており、募集や当日の引率な

参加した小学生の声(2017年9月)



参加者全員で記念撮影

山登りでは、熊が木に残した爪痕が見られたりして、いい経験になりました。

小枝からハガキが出来るなんて、すごいと思った。

どで(公社)日本フィランソロピー協会の協力をいただいています。菅沼社有林ではスタートから2017年度まで22回、一般親子、地元の高校生など計737人が参加しました。

また、2007年からは日本製紙(株)八代工場を中心に熊本県の豊野社有林で、「豊野・森と紙のなかよし学校」を地域に根ざした活動として毎年実施しています。豊野ではプログラムのひとつに工場見学を織り込むなど、プログラム構成を開催地区ごとに工夫しています。

📄 [森と紙のなかよし学校](https://www.nipponpapergroup.com/morikami/)
<https://www.nipponpapergroup.com/morikami/>

事例

「丸沼高原 植樹2018」を開催(日本製紙(株))

日本製紙(株)は、豊かな森林を未来に残していくための取り組みを進めています。その一環として2010年5月から群馬県の菅沼社有林で植樹活動を行っており、2018年5月に7回目となる「丸沼高原 植樹2018」を開催しました。東京地区を中心に参加者を募り、日本製紙グループ内外から約50人が参加しました。

参加者たちは地元片品村森林組合の指導のもと、鍬を使ってカラマツの苗木約100本を植えました。

鍬を使った本格的な植樹を体験できました。



参加者による植樹

木とともに未来を拓く